

平成 27 年度 事務事業評価シート

新規 継続 変更

一般ソフト事業 施設等維持管理 行政事務

事務事業名	乳幼児・学童歯科保健事業	予算事業名	乳幼児・学童歯科保健事業	担当課	健康福祉課						
会計名称	一般会計	予算科目	4款1項6目	所属長名	物袋由美子						
総合計画での位置づけ	すべての町民が健やかに暮らせるまちをつくる 安心な子育て環境をつくる			担当責任者名(記入者)	山下友紀子						
電話番号(内線)											
事業の性格	□ 内部管理事務 ■ 法定事務	法令根拠等	健康増進法								
事業の対象	乳幼児から中学生	実施期間	【開始年度】	昭和 59 年度							
			【終了年度】	平成 年度(予定) ■ 設定なし							
事業の目的	乳幼児期からフッ化物を使い、虫歯になりにくい強い歯を作るとともに、ブラッシングを始めとした、歯の衛生教育を通して、生涯を通じて歯の健康状態を向上させる。	事業の内容	<乳幼児>集団教育、個別ブラッシング指導、歯科健診<幼稚園・保育園・小学校>フッ化物洗口(週1回法)、ブラッシング指導、歯ブラシ配布<中学校>ブラッシング指導、歯ブラシ配布・歯科保健連絡会の開催。								
改善策の具体的取り組み(当初)	幼稚園での育児学級、小学校教諭に対して、歯の健康づくりの講話を行った。	改善策の具体的取り組み(二次評価後)	学童の保護者の働きかけとして、ブラッシング指導を自由に見学し保護者も学べる体制を学校に取っていただき、呼びかけてもらった。								
事業費及び財源内訳(千円)				事業活動の実績(活動指標)							
項目	26年度決算	27年度予算	9月末の執行状況	27年度決算	項目	単位	26年度実績	27年度予定	9月末の実績	27年度実績	
事業費	直接事業費	1,129	1,349		幼児歯科健診受診者数	人	337	350	121	260	
	人件費	963	938		フッ化物洗口実施者	人	762	816	816	816	
	合計	2,092	2,287		乳幼児ブラッシング指導実施者数	人	218	220	79	220	
財源内訳	国庫支出金		1,349	1,349	学童ブラッシング指導実施者数	人	392	380	0	380	
	県支出金										
	地方債										
	その他の一般財源	2,092	938	938							
事務量	①人工数	0.14	0.14	0.14							
	②人件費単価	6,883	6,701	6,701							
	③補助事業人件費										
	人件費(①×②-③)	963.62	938.14	938.14							
向こう5年間の直接事業費の推移(千円)				28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	5年間の合計		
		2,403	1,697	1,361	1,361	1,361	1,361	8,183			
成果指標		12歳の永久歯の一人当たり虫歯保有数		区分年度	26年度	27年度	28年度	目標 28年度			
				実績	0.7	0.7					
指標設定の考え方		健康増進法の指標に「12歳児の一人当たり虫歯保有数を1.0本以下に」と設定されているため。		目標	1	1	1				
今年度の課題への対応状況(途中経過)		中学生の現状を確認し、ブラッシング指導時に意識調査を行う。小学校のフッ素洗口・歯磨きについても全員がしっかりと行えるよう再確認・学校と協議していく。									
事務責任者)	自己評価(担当責任者)	目的の妥当性	5 施策の目的そのものである。 4 施策の目的に沿ったものである。 3 施策の目的に全くそぐわない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E	B	自己の課題認識	就学後は保護者への働きかけが難しいため、本人への意識付けを学校と協力して行っていく必要がある。			
		町民ニーズへの対応	5 町民ニーズに直結する。 4 受益者のニーズは捉えている。 3 町民ニーズを捉えたものと言えない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		町の関与の妥当性	5 町が積極的に関与すべきものである。 4 今のところ関与は妥当と判断できる。 3 町が関与すべきでない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
	有効性	事業の効果	5 町民がおおいに満足している。 4 町民がほぼ満足している。 3 町民が満足していない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		成果向上の可能性	5 具体策が明確で、成果実績が向上している。 4 具体策が明確で、成果の向上が期待できる。 2 問題を解決できる目処が全く無い。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に必要である。 2 施策推進につながらない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
	効率性	手段の最適性	5 活動指標が向上し、新しい活動指標を設定できる。 4 計画・手段が効率的である。 2 活動指標の実績が上がらず、効率的な手段でない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		コスト効率	5 予算額内で目標以上の成果実績の向上が見られた。 4 予算額内で目標の80%以上の実績をあげた。 1 成果実績に対して、予算額が過大である。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		受益者負担の適正	5 コスト効率が良く、サービスとのバランスが良い。 4 適当な受益者負担と判断できる。 1 コスト効率が悪く、受益者以外の負担が大きい。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
	評価(所属長)	一次評価(所属長)	目的の妥当性	5 施策の目的そのものである。 3 施策の目的に沿ったものである。 1 施策の目的に全くそぐわない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E		所属長の課題認識	関係機関である九州大学、学校医、教育委員会、学校、保育園、幼稚園と適宜、調整を行っている。学童期以降は自ら歯の健康づくりに取り組むことができるよう、関係機関と連携を今後もすすめていく必要がある。		
町民ニーズへの対応			5 町民ニーズに直結する。 3 受益者のニーズは捉えている。 1 町民ニーズを捉えたものと言えない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
町の関与の妥当性			5 町が積極的に関与すべきものである。 3 今のところ関与は妥当と判断できる。 1 町が関与すべきでない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
有効性		事業の効果	5 町民がおおいに満足している。 4 町民がほぼ満足している。 2 町民が満足していない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		成果向上の可能性	5 具体策が明確で、成果実績が向上している。 4 具体策が明確で、成果の向上が期待できる。 2 問題を解決できる目処が全く無い。	5	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		施策への貢献度	5 施策推進への貢献は多大である。 4 施策推進に必要である。 1 施策推進につながらない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
効率性		手段の最適性	5 活動指標が向上し、新しい活動指標を設定できる。 4 計画・手段が効率的である。 2 活動指標の実績が上がらず、効率的な手段でない。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		コスト効率	5 予算額内で目標以上の成果実績の向上が見られた。 4 予算額内で目標の80%以上の実績をあげた。 1 成果実績に対して、予算額が過大である。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						
		受益者負担の適正	5 コスト効率が良く、サービスとのバランスが良い。 4 適当な受益者負担と判断できる。 1 コスト効率が悪く、受益者以外の負担が大きい。	4	合計点が 14~15 : A 10~13 : B 8~9 : C 5~7 : D 3~4 : E						

平成 27 年度 事務事業評価シート（裏面）新規 継続 変更

一般ソフト事業 施設等維持管理 行政事務

事務事業名	乳幼児・学童歯科保健事業	予算事業名	乳幼児・学童歯科保健事業	担当課	健康福祉課
会計名称	一般会計	予算科目	4款1項6目	所属長名	物袋 由美子
総合計画での位置づけ	すべての町民が健やかに暮らせるまちをつくる 安心な子育て環境をつくる			担当責任者名（記入者）	山下 友紀子
				電話番号（内線）	
事業の性格	□ 内部管理事務 ■ 法定事務	法令根拠等	健康増進法		
事業の対象	乳幼児から中学生	実施期間	【開始年度】 昭和 59 年度 【終了年度】 平成 年度(予定) ■ 設定なし		
事業の目的	乳幼児期からフッ化物を使い、虫歯になりにくい強い歯を作るとともに、ブラッシングを始めとした、歯の衛生教育を通して、生涯を通じて歯の健康状態を向上させる。	事業の内容	<乳幼児>集団教育、個別ブラッシング指導、歯科健診<幼稚園・保育園・小学校>フッ化物洗口(週1回法)、ブラッシング指導、歯ブラシ配布<中学校>ブラッシング指導、歯ブラシ配布・歯科保健連絡会の開催。		
改善策の具体的取り組み（当初）	幼稚園での育児学級、小学校教諭に対して、歯の健康づくりの講話を行った。	改善策の具体的取り組み（二次評価後）	学童の保護者の働きかけとして、ブラッシング指導を自由に見学し保護者も学べる体制を学校に取っていただき、呼びかけてもらった。		

（一）自己責任者評価	妥当性	目的の妥当性	4	B		B	4	目的の妥当性	妥当性	（一）所属評価長価			
		町民ニーズへの対応	4				4	町民ニーズへの対応					
		町の関与の妥当性	4				4	町の関与の妥当性					
		事業の効果	4				4	事業の効果					
	有効性	成果向上の可能性	4	B			5	成果向上の可能性	有効性				
		施策への貢献度	4				4	施策への貢献度					
		手段の最適性	4				4	手段の最適性					
	効率性	コスト効率	4				4	コスト効率	効率性				
		受益者負担の適正	4				4	受益者負担の適正					
課題認識	就学後は保護者への働きかけが難しいため、本人への意識付けを学校と協力していく必要がある。	自己評価は、担当者が主に事業推進を効率的効果的に進めたかどうかを評価したもの。 一次評価は、担当者の自己評価を踏まえて施策の推進を念頭に置き、所属長が評価したもの。	関係機関である九州大学、学校医、教育委員会、学校、保育園、幼稚園と適宜、調整を行っている。学童期以降は自ら歯の健康づくりに取り組むことができるよう、関係機関と連携を今後もすすめていく必要がある。	課題認識									

施策を踏まえた判断評価	（二）次評価	<input checked="" type="checkbox"/>	一次評価結果より以下の点について良好と評価し、更なる事業推進を求める。			
		<input type="checkbox"/>	乳幼児から中学校まで一貫した歯科保健事業を九州大学予防歯科の協力を得て実施。「12歳のむし歯を1本以下に」という当初の目標を達成。中学校卒業後も歯の健康づくりを継続できるように、今後も更なる推進が必要である。			
		<input type="checkbox"/>	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。			
		<input type="checkbox"/>	一次評価結果のとおり事業継続と判断するが、以下の課題を新たに追加する。			
		<input type="checkbox"/>	一次評価は以下の点で問題がある又は判断されるため、一次評価の見直しを求める。			
		<input type="checkbox"/>	市民サービスに直結する主要事業のため、評価そのものを行政評価委員会に諮ることとする。			
		<input type="checkbox"/>	一次評価結果のとおり事業縮小と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。			
		<input type="checkbox"/>	一次評価結果のとおり事業廃止と判断し、行政評価委員会に諮ることとする。			

行政評価委員会の答申	外部評価	答申の内容
		久山町のオリジナリティ、優位性をアピールできる事業であるため、居住、人口誘導施策においても、PRすべき事業であり更なる強化を望む。課題として保育園との連携方策、中学生以降への啓発を検討していくべきである。事業活動の実績は人数ではなく、%のほうが望ましいと考える。